

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年3月11日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・ユニ バーシティ学部	准教授	内田 尚孝
研 究 題 目	日中全面戦争化過程の研究 －1936年成都事件、北海事件を中心にⅢ	
研 究 成 果 の 概 要	<p>1935年から36年にかけての日中二国間交渉、とくに東京・南京間で展開された公式外交交渉の解明をテーマとした2つの論文（「1935年、「華北事変」期における日中外交交渉の再検討－「満洲国」問題と「三原則」をめぐる日中間の対立」（『GR－同志社大学グローバル地域文化学会紀要－』第1号）と「川越茂・張群会談再考－国民政府内の議論を中心に－」（『コミュニカーレ』第3号））を発表した。</p> <p>前者は、これまで判然としなかった広田弘毅・王寵恵会談と広田弘毅・蔣作賓会談の相互関係を、その中間点に位置する磯谷廉介・陳儀会談の解明を通して明らかにし、華北分離工作期＝華北事変期における日中外交交渉の全体像の捕捉をめざした。後者は、成都事件発生を受けて、南京を舞台に開始された日中間交渉、いわゆる「川越・張群会談」のうち、9月初めの須磨弥吉郎・張群会談から川越茂・蒋介石会談に至るまでのおよそ1カ月間に焦点を絞り、この間の日中間交渉の陰で展開された国民政府内部の対日政策調整過程について解明した。</p> <p>また、昨年度に引き続き台湾・国史館で「蔣中正總統檔案」を調査し、1935-1937年段階の日中関係に関連する史料の閲覧、筆写および整理を行った。本作業には次年度以降も引き続き取り組んでいく予定である。</p>	